

# シンポジウムのご案内

## 生物化学分析部門・臨床検査総合部門合同開催

【災害時における臨床検査 ～もしもの時へ備えるために～

災害対策における臨床検査の平時の準備】

災害時に必要な検体検査業務やライフライン（電気・水）が閉ざされた場合の対応、また、災害対策としての備えをシンポジストに教示いただき、災害が起きた際に必要な医療を提供するために検査技師として何ができるか、何を備えておくべきなのかを学び、情報共有の一環となる研修会を目指す。

## 臨床一般部門

【未来を動かす！ 心に残った一般検査症例からの学び

～経験をつなぎ、未来をひらく～】

心に残った症例には、臨床検査の意義と現場の知恵が凝縮されています。

本シンポジウムでは、一般検査の症例を共有し、そこから得られた学びや工夫、アドバイスサービスとしての情報提供のあり方を整理します。

過去からの継承と新たな創造を通じ、未来を見据えた革新に向けた臨床検査の役割を考え、臨床現場への貢献をさらに高めるヒントを見つけます。

## 臨床血液部門

【血液検査技師の未来を考える

～進歩する医療の中で必要とされる血液検査技師を目指して～】

医療技術の高度化・自動化により、血液検査技師の在り方も変化している。

本シンポジウムでは、限られた人材や時間の中で、最大限のパフォーマンスを発揮するための人材育成、業務効率化について、それぞれの事例や取り組みを紹介していただく。参加者が、進歩する医療の中で存在感のある血液検査技師を目指す、第一歩を踏み出す場としたい。

## 臨床微生物部門

### 【微生物検査室の継承と革新 ― 人口減少・医療 DX 時代における存在価値を描く ―】

人口減少や医療 DX の進展、人材不足など、医療を取り巻く環境が大きく変化する中、微生物検査室には「縮小圧力」への対応と、感染症診療や感染対策を支える「役割拡大」が同時に求められている。本シンポジウムでは、微生物検査室の存続・発展に向け、業務の効率化、プレゼンス向上、人材育成・技術継承などの戦略を多角的に議論し、地域医療における微生物検査室の存在意義と未来像を参加者と共に考える場としたい。

## 病理細胞部門

### 【これからの病理検体管理について考える ～未来の検査を見据えて～】

病理検体を用いた検査は近年急速に拡大しており、特に数百もの遺伝子を一度に解析可能ながん遺伝子パネル検査は、ゲノム医療を支える上で欠かせない存在となっている。その一方で、こうした高度な検査を実現するためには、病理検体の適切な管理体制の確立がこれまで以上に重要となる。各施設における現状と課題を共有し、将来のさらなる検査技術の発展を見据えながら、これからの病理検体管理の在り方について改めて考えたい。

## 輸血細胞治療部門

### 【輸血医療の質向上を支えるガイドライン ～検査・製剤保管・有害事象対応～】

「赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドライン（改訂 5 版）―変遷と実践へのアプローチ―」、「輸血用血液製剤保管管理ガイド」、「科学的根拠に基づいた輸血有害事象対応ガイドライン（改訂第 2 版）」がそれぞれ作成及び改訂された。作成及び改訂の目的や背景、変更点を解説する。安全な輸血を支えるための最新の情報を整理し、自施設の輸血療法の運用に活かしてほしい。

## 臨床生理部門

### 【面白い生理検査を未来に繋ぐ ～教育訓練による技術の継承～】

生理検査における技術の継承は教育訓練の積み重ねにより成り立つといっても過言ではない。心電図、肺機能、超音波、神経の各領域における教育体制について、新規配属者への教育、技能の統一のための教育、レベルアップを図るための教育の 3 部構成にてご紹介いただく。

## 染色体・遺伝子部門

### 【部門横断で理解する遺伝子検査 ～遺伝子で超える分野の垣根～】

遺伝子検査は、疾患の診断や治療方針決定、予後予測など、医療のさまざまな分野で重要性が高まっています。本シンポジウムでは、部門の垣根を越えて遺伝子検査の活用法を共有し、新規導入検査の運用事例や各施設の特色ある取り組み、導入例の少ない検査・ツールに関する情報を通じて、現場で活用できる実践的知見を提供することを目的とします。これにより、自施設における検査運用の向上およびチーム医療へのさらなる貢献を目指します。

## タスク・シフト/シェア

### 【これからの臨床検査技師の在り方や存在感を確認し、

臨床検査技師の新たな価値観を考え未来を見据える

### ～タスク・シフト/シェアで認められた新たな業務について～】

新たな業務についての講演を行っていただき、これから取り組もうとしている施設の参考になることを目指す。また、これからの臨床検査技師の在り方や価値観、何が求められているのかをみんなで考えて未来を見据える。

## 青年部企画

### 【先輩に聞く！認定資格のメリットと現実

### ～これから認定資格を目指す人のためのリアルガイド～】

若手技師（20～30代）を対象に興味・関心がある各種認定資格について理解を深める機会を提供することを目的とする。認定資格をより身近で現実的な目標として捉えてもらうため、講師も同年代の若手技師に担当して頂く。

同世代からの実体験を踏まえた率直なメッセージを届けることで、参加者自身の専門性向上や将来のキャリア形成について考えるきっかけとしたい。



# 部門特別企画

## 臨床血液部門

### 【症例から学ぶ血栓止血学 ～異常値を見極めよ！真実を見抜く病態アプローチ～】

これまで血栓止血検査の理解が難しく苦手意識を持っている方、普段は血液凝固検査に携わっておらず、日直や夜勤業務の時にしか従事しない方、どなたでも気軽にご参加いただきたい。

前半はこの分野でのトップアスリートの先生方に、異常値を論理的に読み解くポイントをご講演いただく。後半では参加者にも、提示症例のクロスミキシングテストなどについて回答していただく参加型の企画とし、血栓止血検査の更なる理解の一助になれば幸いである。

## 臨床生理部門

### 【中四国超音波会議 2026 ～パニック所見とその運用～】

近年、生理部門においても検体検査と同様、緊急報告の対象所見をいわゆる「パニック所見」として定めている施設が多くなっている。本セッションは超音波検査に関するパニック所見について、各施設の運用方法の紹介、現状感じている問題点等を共有することで中四国支部会員に有益な情報を提供することを目的とする。